

10月6日(火)

着物の端

聖書朗読 マタイ 9:18~26

もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。 マタイ 17:20

あなたは次のように言うのを、何回ぐらい聞いたことがありますか。「兄弟たち、私たちはもっとやらなければなりません。私たちは着物の端にさわっているだけです」。この言葉の意味は、着物の端にさわっているだけということは、小さなことしかしていないということなのです。

イエス様の教えの中に2か所、イエス様の着物の端にさわった人たちについての話がでてきます。その箇所を読んでもと、血の止まらない女が深い信仰をもって、「もし私がイエス様の着物の端にさわることさえできれば、きっとよくなる」と思って行動に移したことが分かります(マタイ14:36)。別の場面では、「大勢の人々が、せめてイエス様の着物のふさや端にさわらせてもらえばと願ひ、さわった人々はみな、いやされた」と書かれています(マタイ14:36, マルコ 6:56)。

着物の「端」とは、敬虔なユダヤ人が衣服の端に着けていた「ふさ」のことです。これは神様の戒律を覚えるために着けていました。

よく使われる「衣服の端にさわる」という表現には二つの重要な点が見過ごされています。一つは、イエス様の衣服の端にさわるには信仰が必要で、信仰によってその行動が行われた時に報いがあるのです。また、小さな努力を侮ることなく、イエス様に届いてそのお力をいただくという信仰が私たちにはもっと必要なのです。

信仰は、見えないものを見せ、すばらしことを信じさせ、不可能に到達させます。

讃美歌 270

祈り ああ、主よ。壊れた人生を治すことができるあなたの力を受け止めるための信仰を私たちにください。そして私たちをもつてあなたに奉仕することができますように。

イエス様を通して。アーメン。

エベレット・ファーガソン
テキサス州 アビリン

10月7日(水)

ことば、ことば、ことば

聖書朗読 マタイ 12:22~37

心に満ちていることを口が話すのです。

マタイ 12:34

小グループのビジネスマンたちが、レストランのテーブルに座っていました。ビジネスマンの一人が、特に重要ではない議題について、ごく普通のコメントをしました。するとほかのビジネスマンの一人がすぐさま、そのコメントが間違っていると内容を拡張しながら、激しく説明し始めました。その言い様には、コメントをした同僚の知性が低いと言っているような含みが感じられました。

最初にコメントしたビジネスマンは何も返答はせず、おそらく議論の邪魔をしたくなかったのでしょう。しかし、そのビジネスマンの一団が全員去ったとき、彼は困惑し侮辱されて傷ついた様子に見えました。彼を批判した同僚は自己満足な態度で意気揚々と歩き去って行きました。その姿は彼自身の知性が同僚より優れていることを実証したといっているかのようでした。(しかし興味深いのは、間違っていたのは批判した人だったのです。)

私たちの言葉は、良くも悪くも他人に影響を与えます。今日の教えの中でイエス様は、私たちが発言するとき、それは私たちの心から流れ出ると言われています。そして私たちが不注意な言葉を発してしまったときにもそれに対しての責任があると警告しています。

おそらく、ビジネスマンの話はそのよい例です。舌を制御することは、だれにもできません(ヤコブ 3:8)。イエス様は、私たちが気安くしゃべっているときに思わず言ってしまう不注意なことばについても、警告しているのでしょうか。その通りです。私たちが誤って選んだ言葉が人々を傷つけ、そして彼らの言葉もまた私たちを傷つけることになるのです。

讃美歌 第二編 80

祈り 恵み深き主よ。私たちが他人に心を留め、言葉を選びながら思慮深くなれるように助けて下さい。

イエス様の御名において。アーメン。

ウエイン・エステス
カリフォルニア州 サウザンドオーク

10月8日(木)

完 全 な 変 換

聖書朗読 マタイ 16 : 13 ~ 23

・・・散って寄留している、選ばれた人々、・・・どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように

I ペテロ 1 : 1 ~ 2

私は、ペテロがキリストによって完全に生まれ変わると確信し、魚を取る網を捨てて従ったのだとは思いません。ペテロはいったいいつから自分の変化に気づきはじめたのだろうかと思います。多分それは、イエス様が海面を歩かれてペテロを海水の中から引き上げたときかもしれません。イエス様がサタンを退けられたときかもしれません。おんどりが鳴いたときだったかもしれません。ペテロはイエス様を知らないし一緒に行動していたことも否定しました。そしてそのことを再び否定し、その後でまた否定しました。ペテロには、神様がこの漁師の心の中でなさっておられることが分かっていたのでしょうか。

天におられる神様は「ただ待ちなさい。ただ待ちなさい。素晴らしいことが起こるのです。何が起こるか見るまで待っていなさい」とおっしゃっていました。空っぽになった墓を見るまで待っていなさい。伝道するための炎の舌となるのを待っていなさい。神様はペテロにそうする力があり、そうなるであろうと分かっていたのでした。

神様は私たちを愛されています！ キリストとの関係を否定したペテロも、神様の愛と恵み深い赦しから除外されてはいません。私たちも除外されてはいません。神様はペテロを、漁師からキリストの証人へ、そして伝道を導く勇敢なリーダーに変身させました。神様は私たち一人ひとりをも変身させてくださいます。その道は苦しいかもしれませんが、神様は私たちを想像を超えた場所へ導いてくださいます。私たちには、神様によって計画された役割が用意されているのです。神様は、あなたをどこへ導かれるのでしょうか。

讃美歌 243

祈 主よ。私の人生におけるあなたのご計画を信頼します。あなたが私の心や頭を作り変えてくださるにつれ、私が忍耐強くなりますように。あなたの愛を信じます。

イエス様の御名において。アーメン。

コルリーン・パーマリー

カリフォルニア州 サウザンドオーク

10月9日(金)

一 に 愛 , 二 に 愛

聖書朗読 マタイ 22 : 34 ~ 40

イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

マタイ 22 : 37 ~ 39

パリサイ人たちはイエス様に大いなる問題をもって挑みました。パリサイ人の専門家たちは、神様の戒めをおびたしい規則や制約にまで広げていました。専門家の一人がイエス様に「最も重要な戒めはなにか」と尋ねました。イエス様はこれ以上簡単にはできないようなお答えをなさいました。————これらの二つの戒めは、ほかのすべての戒めの先にきます。

神様は「これが、私があなたに何にもまして一番要求すること」とおっしゃっています。神様は、私たちの愛と献身のすべてを望まれています。愛は私たちの心を支配し、私たちの思考を方向づけ、そして私たちの行動を促します。私は神様にとって究極に重要であると思いますし、私が神様を「最も大切な人」とすれば、私の人生の中のすべては愛にもとづくことになるのです。こうして第二の戒めは最初の戒めから流れ出るということが分かります。

ドイツの修道士ケンピスはこう祈りました。

汝の思うがごとく、汝が思うことを、汝が思うときに。

讃美歌 169

祈 お父様。何にもまして、完璧な心からの思いをもってあなたを愛したいのです。他人に奉仕するために、私たちをあなたの愛の通り良い管としてお使いください。

イエス様の御名において。アーメン。

ブルース&ジェーン・エバンス

テキサス州 アビリン

10月10日(土)

慰める人になりなさい

聖書朗読 マタイ 25:35~40

すると、御使いが天からイエスに現れて、イエスを力づけた。イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

ルカ 22:43~44

40 台半ばのある女性が、夫から離別する必要があると考えました。彼女は違う教会に通い始めました。その教会で出会った老齢の婦人が彼女に親切にしてくれました。老齢の婦人は、自分より若い彼女を自宅の食事に招いてくれました。それは何度も続き、訪れているときに涙を流すと、老婦人は彼女の手を温かく握ってくれました。その女性は、最終的には夫と和解をしましたが、彼女と老婦人との友情はずっと続きました。

イエス様は逮捕され、拷問にかけられてから十字架にかけられるということを知っていました。それで暗い庭の地面に伏して、十字架にはりつけになることを取り去ってほしいと神様に懇願しました。神様は、天使を送ってイエス様を慰め、力づけました。

私たちには、苦しみとき、悲しみとき、力尽きてしまうときがあります。世界中のだれであっても同じです。私たちは神様に、ひどい苦しみがやむように祈ります。神様はいつでも私たちの痛みや悲しみを止めてくださるとはかぎりません。しかしあなたが祈れば、神様はイエス様に天使を送ったように、私たちにも誰か助け手となってくれる人を送ってくださいます。助け手は希望の言葉であるかもしれませんが、あなたが苦しんでいるときに手を握ってくれる人、または同じ苦しみにある他人がくれる言葉の中にあるかもしれません。

助けを必要としている人を慰める人となりましょう。あなた自身が慰めを必要としているときには、神様に助け人を送ってくださるように求めましょう。神様は、私たちの人生に働かれています。

讚美歌 第二編 26

祈り お父様。あなたがくださる慰めに感謝します。あなたの今日の日の恵みに気づき、それを他人に分けることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ラレンダ・ロバーツ

カリフォルニア州 サウザンドオーク

10 月 11 日(日)

こ の 上 な い 不 正 義

聖書朗読 マタイ 26:57~67

わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、また、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 マタイ　５：１１

マタイ 5 : 11

私は、ジャーナリズムの世界で仕事をしたことがあります。ジャーナリストたちが自分の意見をコラムなどに書くと、それを読んだ一般の人たちからしばしば感想を寄せられることがありました。たいていは、コラムに書かれたことについての強い反論でした。私は時々、ひどく悪意にみちた内容の手紙やEメールを受け取りますが、ときには電話で言ってくる人もいます。時々、私はいったいどうすればこんなにも完全に私の意見を誤解して受け取るところができるのかと思ったものです。

イエス様は30歳で大衆を相手に仕事を始めました。最初イエス様はアイドルのようにもてはやされましたが、イエス様が、ご自分に従うために人々が支払わなければならない犠牲について話し始めると、群衆は消えたようにいなくなっていました。

しかしそれでもまだ、イエス様は権力者たちによって脅威を与える者として見なされていました。宗教的指導者たちは、イエス様をトラブルメーカーとして取り除きたかったのです。それで、ローマの総督ピラトをそそのかして、イエス様を磔にしました。

しかし、それから数週間後、ペテロは寺院の中庭で群衆に、イエス様が不法者の手によって十字架につけられて殺されたことを話しました（使徒2：22～23）。

不法な者の手はまだクリスチャンたちを迫害しています。イエス様は私たちに、そのような不法な扱いがたとえどんなに耐えがたいものであろうと、私たちに特別な祝福をもたらすのだと思い起こさせてくれます。

讚美歌 452

祈り 主よ。良い時にも悪いときにも、私たちと共にいてください。私があなたから身をそむけることが決してありませんように。

イエス様の御名において。アーメン。

グローバー・シップ。

テキサス州 オースティン